

(株) 金沢大地／アジア農業 (株) ／金沢農業

～能登の里山里海を再評価し、有機農業を推進～

有機大豆のほ場



加工商品



経緯

- 環境保全型農業を実施するため、平成9年、金沢農業を設立。
- 有機農産物の加工・販売のため、平成14年に金沢大地を設立。
- 耕作放棄地再生等のため、平成21年、アジア農業を設立。

取組内容

- 米、麦、大豆、蕎麦、野菜等を有機栽培。経営面積337haの日本最大規模の有機農業経営体。
- 伝統製法にこだわった調味料、豆腐、納豆、スイーツ等、100品目超の加工商品をインターネットや直営店で販売。

活動の成果

- 経営面積は平成9年の45haから、平成24年には337haまで拡大。食料自給率向上等に寄与。
- 自社ネットショップでの売上高は、8百万円(平成20年度)から26百万円(平成24年度)まで拡大。

今後の方針

- 能登の里山里海の世界農業遺産認定を契機に、更なる能登ブランドの商品開発を推進。
- サポーターとの顔の見えるつながりを活かした、農場体験の提供等を通じて、地域振興に貢献。

11 春蘭の里実行委員会

みんなの探しものが見つかるむらづくり

石川県 能登町



該当
カテゴリー

伝統・継承

農林漁業
体験

自然・景観



輪島塗の御膳



農家民宿で修学旅行を受入れ



キノコ狩り体験

概要

- 黒瓦、白壁などの景観や地域の生活様式といった、地域の景観や伝統を地域の宝として農家民宿・体験事業を実施し、国内外の教育旅行や一般客を受入れ
- 輪島塗りの器を使用するなど農家民宿の質の向上や宿泊受付窓口・料金の統一化、80を超える体験メニューを整備
- 農家民宿の開業講座や勉強会など農家民宿の確保や魅力の向上

成果

- 平成9年度1軒だった農家民宿が周辺集落にも広がり47軒に拡大。春蘭の里金沢会が発足
- 入り込み客数が平成9年度30人から平成26年度には1万人超え
- 世界農業遺産効果で地域の建設業者の農業参入により、耕作放棄地が解消

12^{の と た か}NOTO高農園

移り住んだ能登島の魅力を野菜に籠める

石川県 七尾市



該当
カテゴリー

女性の活躍

定住・移住

6次産業化



能登島の魅力を野菜に籠める



耕作放棄地を再生



コリンキー（生食可能なかぼちゃ）

概要

- 平成12年に夫婦で新規就農し、遊休農地を利用して伝統野菜等をエコ栽培、有機栽培
- 地域の食材の魅力や栽培情報を広め、6次産業化を推進
- 「能登エコファーマーズ倶楽部」を設立し、エコ農業や地産地消のPR。若手女性農業者や異業種女性の仲間づくりを推進

成果

- 作付けの拡大に伴い耕作放棄地が減少
- 能登島の食材のPR・普及により、農業体験や移住希望者が増大。百貨店バイヤー、レストランシェフ等、毎年500人規模の体験を受入れ
- 能登が世界農業遺産に登録されたこともあり、エコ農業等の環境に配慮した農業生産に注目

農業法人 有限会社 わくわく手づくりファーム川北

かわきた

麦から手作りのビールが担う地域の活性化

石川県
川北町

該当カテゴリー➤

6次産業化

地産地消

輸出



休耕田を利用した大麦農場



醸造所・産直物産館等の外観



金沢百万石ビールのラインナップが充実

概要

- ◆ 農村の衰退が進む中、休耕田を利用して麦を栽培。
- ◆ 大学と連携し、生産した六条大麦の機能性成分に着目した「金沢百万石ビール」を開発。
- ◆ 駅の売店等で販売する小麦ビール、金沢駅限定のビールも開発。
- ◆ 東南アジアへの輸出拠点としてシンガポールにアンテナショップを開設。

成果

- ビールのラインナップが充実し、売上は、約2,400万円から約1.5億円に増加 (H24-H28)。
- 六条大麦の仕入量は、約8.4tから約22tに増加 (H24-H28)。
- 雇用者数は、8人から13人に増加 (H22-H28)。
- 北米にもオリジナルビールの輸出を開始。

農業生産法人 株式会社 スギヨファーム

里山レストラン&地元イベントで町おこし!

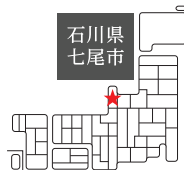
石川県
七尾市

該当カテゴリー➤

「食」の
提供・活用

6次産業化

地域活性



農場の一部施設を改修し、レストランをオープン



ヨガとビュッフェを合わせたイベント等を実施



収穫された食材を使って料理教室を実施

概要

- ◆ 耕作放棄地の再生を目指し、農業参入。
- ◆ 練り製品を製造する親会社や学校給食等に農産物を供給。
- ◆ ジャムやドレッシングへの加工、レストランの開設等、6次産業化に取り組む。
- ◆ レストランや農場を活用した地元主役のイベントを開催。

成果

- 耕作する農地は、約4.8haから約60haに拡大。(H19-H28)
- 平成27年開設のレストランは、約2,400人が訪れ、約450万円を売り上げ(H28)。
- レストランは、地元のイベントの場としても機能し、地域にも貢献。

合同会社 のとしし団



ぼたん鍋用の精肉

該当カテゴリー

鳥獣被害防止

地元食材の提供・活用

ジビエ



〒925-0613 石川県羽咋市
飯山町ヲ32番地

tel 0767-26-2944

fax 0767-26-2944

mail notoshishi@circus.ocn.ne.jp



被害対策として捕獲檻を設置

概要

- ◆平成27年に獣肉加工施設を整備し、捕獲したイノシシを地域資源として活用する、「のとしし大作戦」を開始。
- ◆地域おこし協力隊1名が「合同会社のとしし団」の代表となり自立。解体・販売などのノウハウを習得し、ジビエの生産を開始。
- ◆ふるさと納税の返礼品に登録し、返礼品ランキングの首位となるなど高評価を受ける。

成果

- ◆精肉販売額は、100万円から1,600万円に増加（H27～H29）。
- ◆「のとしし」の猪肉をメニューとして提供する店舗は、7軒から35軒に増加（H27～H29）。
- ◆産業廃棄物として大半が処理される皮も、皮革製品として活用する取組を開始。



道の駅「のと千里浜」での店頭販売

石川県立翠星高等学校 食品科学研究会



食品科学研究会のメンバー

コミュニティ部門

6次産業化

教育機関との連携

農福連携



〒924-0815 石川県白山市
三浦町 500-1

tel 076-275-1144

fax 076-274-0732

mail [suiseh@m1.ishikawa-c.
ed.jp](mailto:suiseh@m1.ishikawa-c.ed.jp)



廃棄果皮ゼロシステムの全国発信

概要

- ◆ 高校生が、搾汁後廃棄していた果皮を利用して加工・商品化する「廃棄果皮0システム」を構築。
- ◆ 全国展開を図るため「廃棄果皮0システム」のロゴマークを商標登録し、SNS等で積極的にPR。

成果

- ◆ 企業と連携し開発された加工品の販売数の増加に伴い、廃棄果皮消費量が59kgから324kgに増加（H26～H30）。
- ◆ 障がい者就労施設に加工品製造に係る業務を委託する等、障がい者就労支援にも寄与。
- ◆ SDGsの達成に貢献する施策の活動事例として発表（R1）。



廃棄果皮乾燥残渣で和紙の色づけ体験

干拓地に広がる赤と黄色の絨毯

か ほ く が た

河北潟干拓 土地改良区



ひまわりの村内をトロッコに乗って回りながら PR

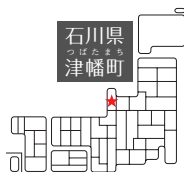
コミュニティ部門

環境保全・景観保全

食育・教育

若者・学生の活躍

石川県
つばたまち
津幡町



〒929-0328 石川県河北郡
津幡町字湖東 395

tel 076-288-4424

fax 076-288-7531

mail kawakami@k-kantaku.com



緑肥作物のクリムソクローバーを楽しむ

概要

- ◆ 行政と連携し、干拓地の豊かな自然を活かした「ひまわり村」を開村し、ライトアップやミニ LIVE など様々なイベントを通じて干拓地の理解醸成を図る。
- ◆ カフェを併設し、地元農家が栽培した果実や野菜等を使用した料理等を提供。



展望台からひまわり村を眺める様子

成果

- ◆ ひまわり村への入村者数は、2 万人から 2.9 万人に増加 (H26 ~ H30)。
- ◆ 地元のテレビやラジオでの生中継や新聞など、多くのメディアに取り上げられ、地域の夏の風物詩として定着。



じょうのり ひでお
上乘 秀雄



上乘秀雄&純子夫婦（本人：右）

個人部門

環境保全・景観保全

6次産業化

その他（絵本による里山づくりの啓発活動）



ケロンの小さな村

〒 928-0326 石川県鳳珠郡
能登町斉和た部 26

tel 0768-62-1471

携帯 090-4332-1380（上乘）

fax 0768-84-5012

mail keron.mura@gmail.com



夫婦二人で創り上げた今の「ケロンの小さな村」

概要

- ◆ 故郷の里山を再開発して子どもたちが自然体験や環境学習ができる場を創ろうと、自然体験村「ケロンの小さな村」を創設。
- ◆ ビオトープやツリーハウスを整備するなどして子ども達への自然体験を行うほか、自家生産の米を米粉にしてパンやピザを販売するなど6次化にも取り組み、大人の来客も取り込み地域に賑わいをもたらす。

成果

- ◆ 自然体験や環境学習での子どもの来村者数は年間4,000人、大人も合わせると5,000人（H30）で地域の活性化にも貢献。
- ◆ 自らの取組を絵本にして出版。小学校等での読み聞かせ会や原画展の参加者は年間2,000人（H30）。



保育所や小学校で作者自ら読み聞かせ会

か さ ま れ い こ 笠間 令子



農園従業員と施設外就労の障害者との写真（前列中央が本人）



地域の小学生が、毎年農業見学に来園

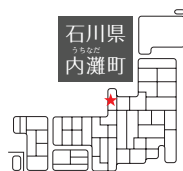


農福連携の一環で行う、小松菜の収穫作業

個人部門

農福連携

食育・教育



〒920-0263 石川県河北郡
内灘町湖西 85

株式会社笠間農園

mail komatsunananako@
kasamanouen.jp

概要

- ◆ 農業の高齢化を農福連携で補うことで、農業の発展及び地域の活性化に貢献し、施設外就労で共生社会を実現。
- ◆ 農福連携として年間 6 施設と関わり、収穫物の 6 次産業化や小中学生等への食育も実践。

成果

- ◆ 障害者や高齢者が活躍できる場を提供しつつ生産量も増やし、農福連携の委託料は 40 万円（平成 29 年度）から 153 万円（令和元年度）に増加。
- ◆ 県農福連携促進アドバイザーとしてマッチングに関わっており、県内のマッチング数は、9 件（平成 29 年度）から 50 件（令和元年度）に増加。

石川県漁業協同組合

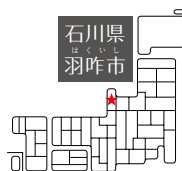
しばがき

柴垣支所

ビジネス部門

水産

伝統の承継



〒 925-0001 石川県羽咋市柴垣
町 19 字 106-2

tel 0767-27-1022

fax 0767-27-1460

mail jf-sbgk@p1.cnh.ne.jp



柴垣天然岩ガキ



ベテランと新人の海士たち



板ワカメの加工を行う地域の女性たち



- ◆ 伝統の海士漁再生を核に、応援隊の結成や海士漁の妨げとなるワカメの加工等を通じ地域の活力を創造。
- ◆ 地元のキャラクター、シンガーソングライター等からなる岩ガキの応援隊「チーム柴垣」を結成し、歌やダンスにより岩ガキのPRを実施。



- ◆ 令和3年度には新たに3名の新人海士が誕生。ベテラン海士の指導を受けながら伝統漁業の継承者として期待。
- ◆ 令和2年度から、海士漁の妨げとなるワカメから、「柴垣天然板ワカメ」を商品開発。

かぶしきがいしゃ みこさと
株式会社 神子の里

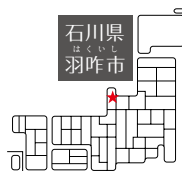


神子原米のブランディング（清酒・味噌・酢等）

コミュニティ・地産地消部門

6次産業化

農村環境・景観保全



〒925-0608 石川県羽咋市
神子原町は190番地

tel 0767-26-3580

fax 0767-26-3581

mail mikonosato@gmail.com



やりがいに繋がる産直機能と賑わい



見守り・配達・配食「神子デリ」の冷蔵配送車

概要

- ◆ 地域の特産品に付加価値をつける自社商品の開発や、山間部の農地を守るため、法人として営農も実施。
- ◆ 離農が進む中山間地域において棚田を守る取組として、「神子原米」のブランド化を進め、ローマ教皇への献上などにより認知度が向上。

成果

- ◆ 特産品販売額は約6,700万円（平成29年度）から約7,600万円（令和3年度）に増加。
- ◆ 令和3年度より地域内での宅配サービス「神子デリ」を開始し、地域における暮らしの支援として、徐々に販路を拡大。

さと やま そう ご う が い し ゃ や ま だ ち か い

里山総合会社 山立会

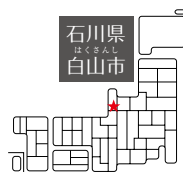


特大サイズの“でけえなめこ”が自慢

ビジネス・イノベーション部門

農業

ジビエ



〒920-2326 石川県白山市
木滑西 1 番地

tel 076-255-5579

mail inf@yamadachi.com



荒廃農地での放牧飼育 羊ふれあい体験も



ジビエのクラウドファンディングに挑戦



- ◆ ビジネスの力で里山を活性化するために、里山における多角経営と、視察研修等による情報発信を実施。
- ◆ 菌床なめこ生産を中心に、ジビエ販売、羊の飼育・販売、食堂など多角経営によって経営力を強化。



- ◆ 羊の新ブランド肉の開発につながったほか、羊放牧やジビエ普及による里山の景観・環境保全にも貢献。
- ◆ 経営基盤となっているなめこの売上は、約 90 万円（平成 30 年度）から事業承継を経て約 3,600 万円（令和 3 年度）に増加。

詳細は団体の HP から ➡



おざわ よしあき
小澤 善昭



タイ・バンコクでの農作業の様子



カンボジアの田植直後の水田の様子



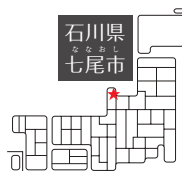
能登でのひゃくまん穀の稲刈り中

個人部門

農業

復興

多様な分野との連携



〒926-0031 石川県七尾市古府
町7番地39番地
農業者／脳考家／能登の匠／能登の
伝道師

tel 090-7630-2562
mail ozawayoshiaki19761223@
gmail.com



能登での農作業中の本人

概要

- ◆ 能登地方における地域振興や活性化が課題。現在は震災後の復旧・復興を目指す。
- ◆ 11年前にシステムエンジニアを退職し、新規就農。4年前よりSNSにおいて日々の活動や能登の情報発信を本格開始、前職システムエンジニアの経歴を活用し農業とIT / ICTとのイノベーションの可能性を模索、タイやカンボジアとの交流を行うほか、小規模水稻農家の持続可能性や農業の栽培技術やノウハウ等の論文化を模索するため、多様な者とのつながりを構築している。

成果

- ◆ 国内お米の各種コンテストに積極的に出品し、複数の表彰を受賞するなど、能登の水稻農家として評価されたほか、Facebookによる投稿は年間400～500回行い、能登の水稻農家としての認知度も向上。
- ◆ 東南アジアにおけるビジネスの展開をするため、タイやカンボジアとの交流を行い、営農指導や情報交換を行っている。



団体の Facebook はこちらから ➡